

平壤

— 社会主義朝鮮の首都、経済開発区 —

司空 俊

平壤は面積二万二六二九・四平

方キロメートル、人口三〇八万人の大都市であり、社会主義朝鮮の首都であり、経済、科学、文化の中心地である。古朝鮮初代王の檀君の時期から五〇〇〇年以上の歴史があり、四二七年から約二五〇年間は高句麗の首都、高麗時代には「西京」として、開京（今日の開城）に次ぐ第二の政治地理的な拠点となり、朝鮮王朝時代には平安道の道庁所在地であった。歴史遺跡が数多く、高句麗安鶴宮跡、檀君陵、平壤城、大城山遺跡などがある。朝鮮民主主義人民共和国樹立後、憲法で首都がソウルに定められたため、平壤は法的には臨時首都の地位ではあったが、「革命の首都」とされていた。そして一九七二年に憲法でも首都になった。「西京」のほかに「柳京」の別名がある。

平壤という地名は本来「大河が

流れる肥沃な土地」という意味の

普通名詞であった。これが檀君朝鮮や高句麗の国都として固有名詞（地名）になった。中央部を流れる大同江は「平壤を流れる大河」という意味である。「大同」は「ハンドル」の漢字語であり、「ハ」は「大きな、広い」という意味、「ドル」は平壤の古代名称であった。「ブル」が語音変化をしたものである。平壤は、大同江と支流（普通江、順和江、祥原江、南江、合掌江）によって形成された堆積平野と、その周辺の丘陵性山地で構成されている。支流のひとつである普通江はよく氾濫したが、一九四六年五月に改修・灌漑工事が行われ、大きく蛇行していた河川が直線的に大同江に連結されたことで、洪水を克服した。

平壤市の中心街は中部と西部である。ここには、北方から大城地域の舟岩山（海拔六二メートル）、

牡丹峰区域の牡丹峰（海拔九六

メートル）、中区域の議事堂や千里馬銅像がある万寿台（海拔六〇メートル）、少年学生宮殿が位置する長台峰（海拔三五メートル）、人民大学習堂が位置する南山峰（海拔三五メートル）、人民軍烈士塔が立っている解放山（海拔三五メートル）、蒼光山（海拔四七メートル）、万景台区域の万景峰（海拔四五メートル）が連なる。中心部の西南方には万景台区域の竜岳山（海拔二九三メートル）、大宝山（海拔三七二メートル）がある。中心部の北方は青竜山脈の南端、大城区域の大城山（海拔二七〇メートル）が位置している。中心部の東方には東大院区域の紋繡峰（海拔八二メートル）がある。周辺部の江南郡、中和郡（黄海北道）、力浦区域、寺洞区域などの一帯は典型的な第三紀の低位性準平原で、三〇〇〜四〇〇メートルの

準平原で、三〇〇〜四〇〇メートルの

残丘が分布している。万景台、順安、兄弟山区域一帯には堆積地が広がる。大同江南岸には平壤準平野（九五〇平方キロメートル）が広がる。平壤準平野の中心は万景台区域、竜城区域、勝湖郡（黄海北道）、江南一帯である。この辺りは海拔高度が三〇〇〜五〇メートル、一〇〇〜二〇〇メートルの残丘が点在する。基盤岩は石灰石、砂岩、頁岩、千枚岩、片岩で、石炭、天然ガスを産する。石灰岩の風化作用で形成された赤色土壌は粘土質である。平壤準平野は順安平野（一九〇平方キロメートル）などとともに農業の中心地帯である。灌漑施設が整い、稲、小麦、野菜、果樹の栽培が盛んである。

大同江は運輸、工業用水、灌漑用水、電力などに総合的に利用されている。大同江には沖積島である綾羅島、半月島、羊角島、鯉岩島、艾島、鶴島、斗団島、斗団島などがあり、遊園地に開発されているか、あるいは野菜専門農場やアヒル飼育工場として利用されている。大同江の河口に西海閘門が建設される前は、平壤市寺洞区域の美林付近までは潮汐作用の影響を受けた。閘門が建設されてからは、大同江は「西海閘門湖」にか

は、大同江は「西海閘門湖」にか

わり、貯水量は二九億立方メートルである。西海閘門のほか、大同江流域には美林、烽火、成川の三カ所に閘門が建設され、洪水調節湖にもなっている。これらの閘門によって水量が安定したため、河津が構築され定期便が行き来している。

平壤は「公園の中の都市」といわれ、植物は観賞用一五〇種、薬用三〇〇種、食用二〇〇種、油脂二〇種、香料など、計約一〇〇〇種みられる。植物相は温帯北部林帯に属し、最近では品種改良がなされて竹や柿の木も生育するようになった。市内の中心部にもキジ、ヒバリ、ウグイス、キツツキなどがみられるようになり、錦繡山太陽宮殿樹木園に南方起源系統の鳥類生息が報告されている。

●工業都市としての平壤

平壤は朝鮮戦争で一四三一回の無差別爆撃を受け、四二万八七〇〇余個の爆弾が投下された。当時の人口は四〇万人程度であり、一人一個以上の爆弾を受けたのである。壊滅的な被害を受けたが復興し、重工業、軽工業ともに発達した。市街地には主に小規模の軽工業、食料品工場などが配置されて

いる。

平壤の燃料動力工業は電力と石炭に依存している。炭鉱には大城区域の三神炭鉱や江東郡の黒嶺炭鉱など大規模なものと、三石区域の三石炭鉱など五〇カ所の中小炭鉱がある。発電所としては、平川区域にある平壤火力発電所、楽浪区域にある東平壤火力発電所は付近の豊富な石炭と大同江の水を利用しており、排水は暖房用に利用されている。

平壤には二三〇余の機械製作工場がある。平川区域にある平壤三二六電線工場をはじめとする電気機械工場、西城区域で電気機関車を製造する金鍾泰電気機関車連合企業所が著名である。最近の報道によく出てくるものとしては、平川区域にある平壤ベアリング工場、平壤無軌道電車工場（トロリーバス）、普通江区域にある平壤蒸着工具開発会社（化学蒸着機や洗浄機）、恩情区域にある平壤スジョン技術合作会社（チェコイノ貿易会社と合作、流量計）、炭素プラスチック・パイプ合作会社（中国瀋陽天陽電機有限公司との合作企業）、船橋区域にある平壤紡織機械工場、寺洞区域にある大同江テレビ受像機工場がある。

最近注目されているのにLED

灯の製造がある。船橋区域にある平壤照明器具工場、万景台区域にある光明LED・太陽電池工場（機能性LED灯、産卵・植物成長促進灯）、平川区域にある電子技術製品研究所、楽浪区域にある三千里照明器具工場、妙香成光合管会社では照明・装飾用LED灯を生産している。なかでも妙香成光合管会社で製作される環境保護・節電型LED灯に人気がある。電力消費が少なく明るく、光は一定・安定し、耐久時間は一〇万時間以上、衝撃と振動に対する耐性が強いのが特徴である。

平壤にはブロック、石材、窯業、建材・煉瓦・建設磁器、化学建材などの建材工業がある。楽浪区域にある江南煉瓦工場は戦後復興の平壤の建設事業で重要な役割を果たした工場である。最近の報道では、楽浪区域にある朝鮮密営合弁会社（中国中橋鋳業有限公司との合弁会社で各種の屋根葺材、遮熱複合板、発泡材）、恩情区域にあるナノ材料研究所（花崗岩汚染防止被膜液）が出てくる。

軽工業については、大規模な中央直轄の繊維工場として、船橋区域にある金正淑平壤紡織工場、平

川区域にある金正淑平壤製糸工場

などがある。平壤市管轄の工場では、衣類では、平川区域にある平壤靴下工場、船橋区域にある船橋メリヤス工場など、履物では、東大院区域にある平壤履物工場（ビニールサンダル）、平川区域にある平壤製靴工場など、食品では船橋区域にある平壤基礎食品工場（味噌、醤油、調味料）、平壤穀産工場（コーンスターチ、鉛・菓子類）、平川区域にある平壤こども食料品工場、万景台区域にある平壤小麦粉加工工場がよく知られている。また、平川区域にある平壤化粧品工場は「銀河水」のブランドで硫黄天然機能性成分や高麗人参を使った化粧水、美白クリーム、シャンプー、リンスなどを生産しており、人々の評判も良い。

主に輸出のための軽工業工場としては、大同江区域にある朝鮮万福合作会社（高級布団）、楽浪区域にある烽火石鹸工場、万景台区域にある東洋高麗薬工場、普通江区域にある運河大聖食品工場、西城区域にある平壤絨織工場、大同江区域にある朝鮮万年製菓合弁会社、中区域で電子ピアノ「小白水」を生産輸出している朝鮮音像電子合弁会社、兄弟山区域にある

朝鮮屈指の家具・建材生産拠点の栄光家具合弁会社がある。

●農業

平壤の農業は野菜を供給する郊外農業が中心である。近年野菜専門温室建設がさかんである。竜城区域の平壤温室農場（旧・竜城温室農場）ではキュウリ、トマト、ホウレンソウ、ナス、トウガラシ、カボチャ、スイカ、サンチュ（チサ）、シユンギクなどが栽培されている。ほかにも万景台区域の万景台野菜専門協同農場、寺洞区域の将泉野菜専門協同農場、五柳野菜専門協同農場が知られており、野菜は外国にも輸出される。なお、将泉野菜専門協同農場はリビア、五柳野菜専門協同農場はパレスチナとの親善農場となっており、大使館員との共同作業などの行事により、国際交流を深める場になっている。

果樹栽培も盛んである。力浦区域にある平壤果樹農場や三石区域に二〇〇九年に建設された大同江果樹総合農場ではリンゴ（低木リンゴ）、ナシ、スモモ、杏、サクランボ、ブドウが栽培されている。大同江果樹総合農場には、大同江

物工場、大同江豚工場など多様な設備が設置されている。

畜産業も盛んである。養鶏工場、アヒル工場、ウズラ工場、養豚工場などは数十カ所ある。なかでも二〇一四年に現代化工事が完了した万景台養鶏工場は鶏五〇万羽、卵の年産一億個以上を誇る。他に肉類と卵生産量が多いところは兄弟山区域の下堂養鶏工場、西浦養鶏工場、三石区域の三石養鶏工場、力浦区の力浦養鶏工場、竜城区域の竜城養鶏工場、楽浪区域の斗団アヒル工場、江東郡の江東養鶏工場である。これらの地域には肉類加工工場がある。豚は寺洞区域にある平壤養豚工場、牛は力浦区域にある力浦牧場、竜城区域にある裴山牧場と順安区域にある河東牧場、ダチョウは順安区域にある平壤ダチョウ牧場で飼育されている。なお、養殖では楽浪区域にある平壤ナマズ工場が有名であり、その専門食堂が二カ所ある。

農業技術に関して、最近の報道では、寺洞区域にある平壤野菜科学研究所、船橋区域にある中央キノコ研究所、楽浪区域にある平壤天然香料研究所（天然香ナノ分散剤利用殺虫剤）などの研究機関が出てくる。二〇一三年に、大城区

域に常設農業技術製品展示場がオープンし、国内原料・各種獣医薬品、飼料添加剤、農業機械・農具、実験設備、農業科学技術図書、農業用ナノ殺菌剤、ナノ生物成長促進剤、微生物除草剤、BT生物農薬などの先進技術と製品などを展示している。

●体育の中心地

二〇一四年三月に、万景台区域にある青年通り体育村のリニューアル工事が終了した。体育村には水泳競技館、中競技館、軽競技館、ハンドボール競技館、バドミントン競技館、ウエイトリフティング競技館、バレーボール競技館、卓球競技館、ボウリング館、メアリ射撃館、そしてトレーニング館、西山サッカー競技場、跆拳道殿堂、体育人食堂、西山ホテル、両江ホテルなどがある。

大きな競技場としては、牡丹峰区域にある金日成競技場（一〇万席）、大同江の綾羅島にある五月一日競技場（二五万席）、羊角島サッカー競技場（三万席）、中区域にある平壤体育館（一万二〇〇〇席）、普通江区域にある鄭周永柳京体育館（一万二〇〇〇席）がある。

朝鮮では八月と九月は人民体力強化月間であり、こうした施設のほか金陵運動館（総合的運動施設）、美林乗馬クラブ、万景台遊泳場、紋繡遊泳場（ウォーターズライダー）、普通江畔野外アイススケートリンク、綾羅人民遊園地、北塞スポーツ公園、平壤市高齢者スポーツおよび娯楽施設、凱旋青年公園遊戯場などが賑わうことになる。

スポーツ科学については、平川区域にある体育科学研究所で研究が行われている。体育器資材研究所では機能的な運動服や器具が研究開発されている。

●先端技術開発区の設置

二〇一四年七月、朝鮮では新たに平壤市に恩情先端技術開発区、黄海南道に康翎国際緑色モデル区、南浦市に進島輸出加工区、平安南道に清南工業開発区、肅川農業開発区、平安北道に青水観光開発区といった経済開発区が設置された。平壤市の恩情先端技術開発区は市北方の周辺部である恩情区域科学一洞、科学二洞、裴山洞、乙密洞の一部地域とされており、ここでは外国の企業活動が法律・政令で保護される。これによって平壤市

は大きく変貌する見込みである。恩情先端技術開発区の開発は、「知識経済」建設のモデル地区をつくること、北東アジア地域で競争力の高い先端技術開発区をつくることを目標としている。現在、道路建設と電気、通信など開発総計画と運営施行細則が作成されている。

恩情区域は平壤市街地から北方への道路と鉄道が通過しており、平壤国際空港と南浦港が数十キロ内に位置しているという交通の利便性がある。平壤国際空港は、すでに二つめの滑走路が建設され、二つめのターミナルが建設中である。モスクワ、ハバロフスク、ペルリン、北京との定期航路があり、国内線でも二〇一四年七月から定期便として咸鏡南道定平郡の宣徳、咸鏡北道の漁郎、両江道の三池淵との間を往復し、それぞれ週一回運行されている。

そもそも恩情地区には理科大学という科学技術人材の養成機関があり、国家科学院およびその傘下の地質学研究所、機械工学研究所、熱工学研究所、電気研究所、操縦機械研究所、地球環境情報研究所、自動化研究所、レーザー研究所、ナノ材料研究所、微少電子研究セ

ンター、選鉱工学研究所、一一一号製作所（電子工学）といった科学技術研究機関が集結している。情報技術、ナノテクなどですでに研究成果が収められ、先端技術製品を開発、生産した経験がある。すでに、恩情情報技術社と柳京プログラム技術社の設立、インターネット・ホームページの開設、国際科学技術交流館の建設、合弁・合作企業の創設が始まっている。

恩情先端技術開発区のメリットは単に恩情区域だけの技術的、人的資源にあるのではない。平壤の市街地にも、大城区域にある金日成総合大学や中区域にある金策工業総合大学、金日成総合大学平壤医学大学をはじめ、東大院区域にある金亨稷師範大学、平壤美術大学、平壤観光大学、大同江区域にある平壤建築総合大学、船橋区域にある韓徳銖平壤軽工業大学、平川区域にある張哲求平壤商業大学といった人材養成基地がある。研究拠点についても、市街地には、平川区域に医学科学院、体育科学研究所、船橋区域に氣象水文機械研究所、紡織研究所、薬学研究所、被服研究所、大同江区域に中央鋳業研究所、東大院区域に出版印刷科学研究所、平壤都市計画設計研

究所、普通江区域に平壤プログラムセンター、万景台区域に朝鮮コンピュータセンターがあり、郊外にも、竜城区域に農業科学院とその傘下の農業化学研究所、土壤学研究所、寺洞区域に教育科学院、農業機械化研究所、水利工学研究所、平壤野菜科学研究所などがある。

また、郊外の楽浪区域に二〇一〇年に開校した平壤科学技術大学は、朝鮮教育省とソウルにある社団法人東北アジア教育文化協力財団が共同運営するものである。ここには情報通信工学部、農生命科学部、国際経営学部の三学部があり、アメリカ、イギリス、中国、ドイツ、カナダ、オランダ、オーストラリア、ニュージーランドなど海外から教員を招き、講義を英語で行い、国際的な舞台で活躍する技術者、研究者を養成している。この大学は二〇一四年五月に初めての卒業生を出した。こうした平壤市全体の人的、技術的資源を引き付ける可能性こそが恩情先端技術開発区の大きなメリットである。このメリットを後押ししているのが近年の住宅建設である。二〇一三年九月に、竜城区域に科学者専用住宅のある銀河科学者通りが

建設された。市街地と恩情地区のちよど中間にあり、市街地にも恩情地区にも一五キロメートルしか離れていない。

二〇一三年一〇月には市街地でも、大城区域に金日成総合大学教育者住宅が建設された。二〇一四年には一〇月に恩情区域で衛星科学者住宅、市街地で金策工業総合大学教育者住宅が建設された。こうして恩情区域、竜城区域、市街地という三点に科学技術人材の集積地ができた。金策工業総合大学教育者住宅の付近は「未来科学者通り」と名付けられ、建設が続けられている。

(さごん じゅん／地理学博士)